

企画展

天真自在の書
三輪田米山展
生誕200年

2021年10月2日(土)~11月30日(火)
本館2階[常設展示室1・2]



三輪田米山(福祿寿)1897年(明治30)

三輪田米山は、1821年(文政4)伊予松山・久米郡鷹子村(現・松山市鷹子町)の日尾八幡神社の長男に生まれ、1908年(明治41)に88歳で没するまで、その生涯を松山の地で神官として過ごしました。神道精神を貫き、和漢のあらゆる学問を修め、書を書き、歌を詠み、そして酒を愛した人でした。書においては、中国東晋時代(4世紀)の王羲之を理想にかかげ、独自の書風を確立しました。特に酔余の書は伊予一円に評判高く、掛軸、屏風作品のほか、松山近辺の神社の神名石や注連石も数多く揮毫しています。豪放にして天衣無縫、何物にも捉われぬ破格のその書は、「近代書の先駆」としていまなお独自の輝きを放ちます。

その書が広く知られるようになったのは、美術コレクターであった大阪の実業家・山本發次郎(1887~1951)によります。洋画家・佐伯祐三を発掘したことで知られる山本ですが、「我が国近世五百年間不世出の大書家」と激賞して、米山作品を多く収集し、世に紹介しました。

本展は、米山生誕200年という大きな節目に、見る者を圧倒し、驚かせるその唯一無二の作品を紹介するものです。今日の米山評価を決定的なものとした山本發次郎コレクション(大阪中之島美術館所蔵)とともに、県内外に伝わる代表作や、神名石・注連石の拓本、幟旗などを通して、米山芸術の尽きない魅力に、改めて触れていただく機会となれば幸いです。(長井 健)

コレクション展

R3年度アートの森プロジェクト

森のなぞ?なぞ美術館II

—木の版画はおもしろい!—

2021年7月17日(土)~10月4日(月)
本館2階[常設展示室3]

美術館では昨年度より、森林環境税を活用した「アートの森プロジェクト事業(5か年計画)」をスタートさせました。この事業には目的が三つあります。まず、愛媛県美のコレクションを守り、その魅力を引き出す「額」等を、県産材の美しい木目を活かして作成していくこと。次に、これらを使った「木」や「森」をテーマにした展覧会を開催すること。そして、えひめの森で育った木々の魅力をみなさんにお伝えすることです。

第二弾となる今年度は「木版画」をテーマにした展覧会を開催します。展示室に登場するのは、「山の版画家」として知られる畦地梅太郎をはじめ、橋本興家、石崎重利、木和村創爾郎、中尾義隆、二神日満男、菊澤尋吉ら、愛媛県美術館所蔵の木版画家たちによるテーマも表現も豊かな作品群です。また、県内でも数少ない木口 木版画家・土居明生の作品も紹介します。“木口木版は、堅い木を輪切りにし、その木口(輪切り面)をビュラン(鋭利な彫刻刀)などで彫る、精密で緻密な表現を特色とする木版画です”(「土居明生 木口木版画展—ふるさと賛歌—」畦地梅太郎記念館より)。

更にこの展覧会では、①みなさんが展示室に出かける前、と、②展示室に入った時、に作品をじっくり楽しむための「なぞなぞ」を用意しています。「?」の行方はみる人次第! 今年の夏休み、家族や友達と一緒に、木版画の森の中を探検してみませんか。(鈴木 有紀)



畦地梅太郎《鳥のすむ森》1975年(昭和50) 多色木版



二神日満男《廃棄物の群列》1991年(平成3)



木和村創爾郎《潮来初夏》1953年(昭和28)



土居明生《獅子獅子》2012年(平成24) 個人蔵



土居明生《風立つ》1991年(平成3) 個人蔵

コレクション展

かわいい展

2021年8月8日(日)~9月20日(月・祝)
本館2階[常設展示室1・2]

1939年(昭和14)、太宰治は「女生徒」という短編を発表しました。語り手である「私」は、東京のお茶の水周辺の女学校に通っている生徒。お寺の娘であるキン子と一緒に美容室を訪れます。古臭い髪型を嬉しがるキン子に対し、「ほんとに、何も考えない可愛いひと」と「私」は痛烈な批判の目を向けます。その一方、自宅の玄関から走ってきた犬のジャピイには、「歯ぎしりするほどジャピイを可愛くなっちゃって」、尻尾をつかんだりしています。

キン子とジャピイに対し主人公が用いた「可愛い」は同じ単語であるものの、そこには全く異なる意味が込められています。キン子への「可愛い」は「気の毒で恥ずかしい」という感情でしょうし、犬のジャピイを表現する「可愛く」は「愛おしい」という意味でしょう。太宰は、様々な意味合いの「可愛い」という単語を意識的に多用することにより、思春期の多感な心情を描きだしたのです。

このように「かわいい」という単語には、複雑な感情と歴史が刻み込まれています。本展では、この何とも捉えどころのないフレーズをキーワードに美術作品を展示します。十二支を主人公にした江戸時代の絵巻から、モフモフした動物たちの掛軸、そして油絵具で描かれた作品にいたるまで、どのような点に当時の人々は魅了されたのか考えてみたいと思います。

現代の我々は、かつてのモノにどのような「かわいい」を見出すことができるでしょうか。新しい「かわいい」のカタチを、美術館と一緒に探してみませんか? (五味 俊昌)



沖冠岳《梅狗図(部分)》江戸時代

《十二類草紙 中巻(部分)》江戸時代、当館寄託



So Cute!

伊藤小坡《夕れ(左幅、部分)》昭和時代、当館寄託

追悼 水木しげる ゲゲゲの人生展



2021年7月10日(土)～8月29日(日)
本館1階[企画展示室]



「思ひ」1936年



スゲンで爆風を受ける 1988年



水木しげるとその仲間たち(II) 2010年頃

「ゲゲゲの鬼太郎」や「悪魔くん」などの代表作を生み出した漫画家・水木しげる(1922-2015)。本展ではその誕生からあの世の入り口まで、貴重な原画はもちろんのこと、水木が「国宝」と付箋をつけた自らのへその緒や、『文藝春秋』2005年新年特別号内特集へ寄稿した「理想の死に方」直筆原稿など、ユニークな資料を多く含む約390点によりその人生をたどります。

水木が元気滂刺で多感な少年時代を過ごした鳥取県境港市では、近所に住んでおり、家の手伝いをしていた「のんのんばあ」と景山ふさから、地域に根差した妖怪たちの奇想天外な伝承を身近に聴いていました。このことが後の創作に少なからず影響を与えたことは言うまでもありません。また、幼い頃から絵画に秀でており、高等小学校時代には教頭の尽力で個展を開催し、新聞に「天才少年画家あらわる!」という見出しで紹介されるほどでした。

そして、青年時代の水木が「死」について徹底的に思考を巡らせることになる、第二次世界大戦。出征先のパプアニューギニアで想像を絶する体験をし、九死に一生を得た水木は、復員後その経験を克明に記し後に作品として発表しています。この過酷な環境下でさえ地元の住民たちと心を通わせるほどの類まれな天性の持ち主であった水木しげる一純粋で飽くなき探究心で、その後の人生を歩んでゆきます。

本展で、あらゆる魑魅魍魎を知り尽くし、私たちの一足先にあの世へと旅立った、人生の大先輩の足取りを追体験していただければ幸いです。(杉山 はるか)

各 水木プロダクション 嵐 © 水木プロダクション

New Collection & Collection Exhibition

このような作品が新たに収蔵されました!

令和2年度新収蔵品とコレクション展

今年度より、当館コレクションの特色や魅力をより楽しんでいただけるよう、新たに「コレクション・ハイライト」のコーナーを設けました。今回ご紹介した作品なども随時展示していく予定です。お楽しみに!



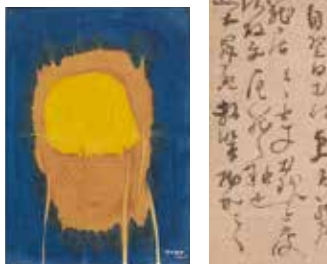
真鍋博(岸本重陳「捨てる神拾う神」挿図原画)1978年 など真鍋作品全3点



畦地梅太郎(火山)1937年



前川千帆(日光戦場ヶ原)



坪内晃幸(『作品』)1957年 など坪内作品全6点



藤原定家(『明月記』断簡)1198年など 上田星都コレクション全24点 石本藤雄作品 全115点

県産材を取り入れ、木質化

新型コロナウイルスにより、生活環境が一変した令和2年度。当館においても、来館者に安心・安全に鑑賞を楽しんでいただくために、様々な対応を行ってきました。その一環として、美術館の木質化を行いました。

3月末よりエントランスに木の椅子がおかれましました。大型ベンチから単体椅子に変更し、間隔を開けた空間に優しい手触りを付加するため、愛媛県産材(12種)で制作された椅子です。皆様の待ち合わせや休憩に、気軽にお座りください。

併せて、南館の県民ギャラリーの有孔壁も抗菌・抗ウイルス機能の塗料で塗りなおし、真っ白な壁面になりました。コンクリート壁や展示室の周囲の床には、部分的ですが県産材をつかい、柔らかな空間を演出しています。受付机や彫刻台も県産材を用いて新しくなりましたので、また、作品の発表などにも是非お使いください。(田代亜矢子)



新館椅子・案内板・結界/プロデュース:FM愛媛 デザイン:バイド/ハイパープロジェクト(株) 制作:株式会社LINKWOODDESIGN

つぶやき



当館新館長 紹介

4月から美術館にまいりました。当たり前に開館できる喜びを、今かみしめています。コロナ禍の中でも、アートを通して癒しや知的体験の提供など、美術館を身近に感じていただけるよう取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。(中川美奈子)

ご利用案内

- 開館時間 9:40～18:00(入室は17:30まで)
※企画展及び貸展については、入室時間が異なることがあります。
- 休館日 月曜日
(祝日、振替休日及び第1月曜日に当たる場合は開館し、その翌日が休館日。年末年始は12/29～1/3が休館日)

編集後記



今年度から『カンフォロ』の発行を担当することになりました。担当していた「名刀は語る展」が来年度に延期になりましたが、これから開催される展覧会の魅力を伝えていけるようがんばります!(青木 朋子)